

令和6年度に実施した内部質保証における自己評価報告書

令和6年11月8日
高知大学内部質保証会議

1. はじめに

高知大学では、教育研究活動等の改善・向上に資することを目的として、令和2年3月に内部質保証会議を設置し、その後、関係規定を定め令和2年度から現在の内部質保証体制の運用を開始しています。本学では、内部質保証を「本学がその使命や目的の実現に向けて、自らの諸活動の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善及び向上に取り組むこと。」と定義しました。

高知大学内部質保証の基本方針（以下「基本方針」という。）の第2項には、内部質保証の対象となる活動を定めています。その活動について、全学的な取組を行う機構やセンター等（以下「全学組織」という。）及び各活動に関わる学部や専攻等（以下「部局」という。）が、点検・評価を行います。点検・評価は、1年に1回行うモニタリング（簡易な点検・評価）及び5年から7年に1回行うレビュー（総合的な点検・評価）によって実施されます。

本報告書は、令和6年度に実施した内部質保証の結果をまとめたものです。

2. 実施体制・手順

いずれの項目についても、令和2年度あるいは令和3年度に令和元年度の諸活動を対象にレビューを行いました。そのため本年度は、基本方針第7項（内部質保証の実施頻度）に基づき、令和5年度の諸活動を対象としてモニタリングを実施しました。

まず、各部局で点検・評価を実施し、それらの結果を参考に全学組織において点検・評価を行いました。各部局及び全学組織の点検・評価結果は、IR・評価機構を通じて内部質保証会議において集約されるとともに、改善を要する事項（課題）については、部局又は全学組織で改善計画を作成し、内部質保証会議で承認しました。部局又は単独の全学組織では対応が困難な課題については、内部質保証会議で検討を行い、担当する理事を中心に対応を行うこととしました。これらの課題については、その後の進捗確認を随時 IR・評価機構が行うこととしています。

3. 総括

令和6年度に挙げられた「改善を要する事項」及び「全学での検討が必要な課題」の総数は6件であり、一昨年度の11件、昨年度の8件と比べ減少傾向が見られます。これは内部質保証の自己点検・評価と課題への対応を毎年度実施してきたことで、取組の質が向上していることが要因と考えられます。挙げられた6件の事項すべてについて改善計画の策定又は改善の指示がなされましたので、本学の諸活動における質の保証や向上への取組が一層進むことが期待できます。現

行のモニタリングの観点への対応が着実に実施できていることを踏まえ、さらなる質の改善・向上を図るためにも、モニタリングの観点を見直す等、内部質保証制度の充実を図っていきます。

また、「さらなる成果を上げるための活動計画」では、適切に実施されている活動であっても、より高い目標に向かってさらなる成果を上げるための取組が昨年度に引き続き多くあげられました。「優れた成果が確認できる取組」では、質保証のみならず質向上への取組が多くあげられました。

4. 改善を要する事項及び改善・向上の取組のうち主なもの

1) 学生受入に関すること

- ・一部の専攻において2024（令和6）年度の実入学者数が入学定員の0.7倍を大きく下回っています。学内外の学生、社会人が参加可能な大学院説明会の実施、説明会でのキャリアプランの提示、大学院HPの充実による教育・研究内容の発信強化、入学料・授業料免除制度等大学院生への経済支援拡充についての広報、社会人に対する広報活動を推進し、入学希望者確保につながる取組を実施します。

2) 研究に関すること

- ・令和5年4月に設置したMEDiセンターにおいて、取組をまとめた年報の作成ができていないため、HPを作成し年次報告を掲載します。

5. さらなる成果をあげるための活動計画のうち主なもの

1) 教育課程に関すること

- ・高知CST（Core Science Teacher）養成・育成事業（※）の中で実施している授業科目「理科教育マネジメントの理論と実践」に、令和5年度は「横倉山自然の森博物館」見学及び横倉山フィールドワークを新たに追加し、学芸員の方との意見交換、さらにはバックヤードを見学させてもらう等により、授業目的に沿った内容のさらなる充実を図っています。

※高知CST養成・育成事業：小・中・義務教育学校教員の理科教育における指導力向上、生徒の理科学力向上を図ることを目的として、高知大学と高知県教育委員会が連携し、高知CST養成プログラムを開発・実施することにより、地域の理科教育において中核的な役割を担う教員を養成するための事業

2) 学生支援に関すること

- ・希望創発センターにおいて実施している「人間関係形成インターンシップ（SBI）（※）」が令和5年度から正課授業（大学が正規のカリキュラムとして位置づけ、授業科目として扱うもの）となりました。これにより、複数の学部から履修学生を募ることで、教育活動の質の向上と学習効果の増大が期待されます。

※人間関係形成インターンシップ（SBI）：Society Based Internshipの頭文字からなるもので、3人1組となり日報・面談での日々の振り返りを行いながら、人との関わりを意識したインターンシップ

3) 学生受入に関すること

- ・入試企画実施機構では、2027(令和9)年度入試への適用に向けて、卒業生、就職先調査の結果をもとに、アドミッション・ポリシーと選抜方法の検討を開始しており、令和6年度中に検討結果を公表する計画としています。

4) 地域連携に関すること

- ・次世代地域創造センターでは、より効果的・効率的な企業マッチングを実施し新たな共同研究パートナーを開拓するために、研究者に対して旅費を支給するなどの展示会出展支援を行い、その支援に対するフォローアップ調査を行い、効果を検証することを計画しています。

5) 図書館及び ICT に関すること

- ・学術情報基盤図書館では、セキュリティの向上を図るため、総合情報システムの更新にあたって、令和5年度に多要素認証の完全実施及びドメインの整理を行い、令和6年6月から実行しています。

6. 優れた成果が確認できる取組のうち主なもの

1) 教育課程に関すること

- ・人文社会科学部では、卒業論文のゼミを含む授業で欠席が続いている等の4年生以上の学生に対して修学支援を行う体制（人文サポートシステム）を構築し、令和5年度は3人の卒業につなげることができました。
- ・学び創造センターでは、平成30年度以降の入学生を対象に継続的に実施しているルーブリック形式のセルフ・アセスメント（※）について、過去の推移を時系列で可視化する分析を新たに加えたことによって、3年次調査時の対人領域の能力に一貫して上昇傾向が続いていることや、3年次調査時の値において対自己領域の能力等複数の項目で、2022年度まで上昇傾向が続いていたものの2023年度は低下に転じたことが確認できました。

※ルーブリック形式のセルフ・アセスメント：学生に身に付けてほしい「10+1の能力」（「10+1の能力」とは＜対課題＞、＜対人＞、＜対自己＞の3領域に属する「10の能力」に、10の能力を思う存分発揮して困難な課題や状況をなんとかする力である「統合・働きかけ」を「+1の能力」として加えたもの）を定め、GPAで評価する能力を除いた8つの能力について、1年次と3年次および卒業時に学生が自己評価をする仕組み

2) 学生支援に関すること

- ・希望創発センターでは、令和5年度に内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」第3期課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」に採択され、新たな『学び』の場となるコンテンツの研究開発のため、「サマセミ型の学びの場」や「食育：出前養殖プロジェクト」等を実施しました。

3) 学生受入に関すること

- ・学び創造センターでは、2023（令和5）年度入試結果に関する分析を行い、入試方法及び広

報活動の改善に関して各学部へ情報提供を行いました。その結果、一部の学部では各コースでの対応の検討につながりました。

4) 地域連携に関すること

- ・土佐 FBC IV (※) において高知県の食品産業に競争優位性をもたらす研究開発人材の育成を目的とした教育課程の構築により、令和5年度に開始した学術指導コースの2名の修了生(社会人)が、令和6年度農林海洋科学専攻(修士課程)に進学しました。高知のフィールドを活かした専門教育を展開する農林海洋科学専攻への進学は、本事業が地域連携活動を発展的に継続していることを示す優れた成果であると考えます。

※土佐 FBC IV： 第4期(令和5～9年度)の土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業

5) 研究に関すること

- ・基礎医学部門では、マイクロ RNA 生合成制御に基づくがん抑制について、高知大学総合研究センターと金沢大学がん進展制御研究所との共同研究が昨年続き令和5年度金沢大学がん進展制御研究所共同研究事業に採択され、がん研究を推進しています。また、ウイルス発がん研究の成果が、米国感染症学会学術誌 Journal of Infectious Diseases、パン・アメリカ臨床ウイルス学会/欧州臨床ウイルス学会学術誌 Journal of Clinical Virology、日本癌学会学術誌 Cancer Science など国際的に評価の高い医学誌に掲載されました。

【本報告書に関するお問い合わせ先】

法人企画課 I R ・ 評価室

Tel : 088-844-8914

E-mail : hj11@kochi-u.ac.jp